
れんげばたけ

瑛彪・玄彪

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

れんげばたけ

【Nコード】

N1235B

【作者名】

瑛彪・玄彪

【あらすじ】

詩です。せつない詩をつくりたかったのです。 . . . 絵本感覚でどうぞ。

私は人を殺しました

大切な大切な人でした

あなたに出会うまではひとりきり

乾いた大地にひとりきり

月日が昇り降りするのを眺めてた

そんな私の隣に腰掛けて

月日が昇り降りするのを眺めてた

あなたもやっぱりひとりきり

乾いた大地にふたりきり

私はいつも見ているだけ

その人が微笑んでも

語りかけても

手をさしのべても

ムシの息になっても

ただ 見ているだけ

そう

見ているだけでした

その人が冷たくなって やっと

わかりました

私に微笑んでくれた あの優しい目

私に語りかけていた 愛らしい唇

私に差し出してくれた きれいな手

それらが いかにも私を欲していたか

しかし

もはや その想いへ 答えることは叶わない

もう 私を見てくれない

話しかけてくれない

動かない

そうになって やっと わかりました

あの人のすべてが どれほど私の支えになっていたか

やっと・・・

ただ私の顔にあった 開かずに切れ目から

初めてその人を求める声が出ました

外をうつすだけの ふたつの鏡から

初めて涙が流れました

熱い雨は ながい間降り続けました

気がつけば

一輪の花が咲いていました

私とその人が座っていた場所に

私とその人の間に

ひっそりと咲いていました

いつからそこに咲いていたの

いつつぼみをつけたの

いつ芽が出たの

もしかして この人が生きてる頃に咲いていたの

私はその人の身体を そつと地に横たえて

その胸に一輪の花をおきました

せめて 花を

気づかなかった

気づこうとしなかった
あなたの愛に

花は実を結び

種をこぼし

それが芽を出し

また花が咲き・・・

瞬く間に 一面が花でおおわれました

この広い世界にひとりきり

月日はあの頃と変わらず昇り降り

地平線 はるか遠くまで

見渡す限りの 蓮華色

この花はあの人ではない

なのに、それなのに

花はそよそよそよと語りかけ

手をさしのげてくるのでした

そよそよそよと 永遠に

(後書き)

そよ という言葉は しばしば

「そつだ」

という意味にかけてつかわれます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1235b/>

れんげばたけ

2010年10月9日02時19分発行